



All Japan Road Race Championship 2022 RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

Round

4

Sugo

■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦 SUPERBIKE RACE in SUGO

宮城県・スポーツランド SUGO (1周=3.6211km)

6月4日(土): 公式予選・JSB1000 レース1・ST600 レース1 JP250 決勝

6月5日(日): 決勝・JSB1000 レース2・ST600 レース2・ST1000 決勝・J-GP3 決勝

観客動員数: 8,000人 (2日間合計)

JSB1000クラス #5 名越 哲平

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選: 10番手 (タイム: 1分27秒946) 決勝: DNF

レース2 予選: 10番手 (タイム: 1分27秒977) 決勝: 6位

JSB1000クラス #28 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選: 9番手 (タイム: 1分27秒726) 決勝: 7位

レース2 予選: 8番手 (タイム: 1分27秒885) 決勝: 7位

ST600クラス #33 國井 勇輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選: 15番手 (タイム: 1分31秒805) 決勝: 22位

レース2 予選: 15番手 (タイム: 1分31秒812) 決勝: 11位

ST600クラス #20 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選: 22番手 (タイム: 1分32秒449) 決勝: 32位

レース2 予選: 19番手 (タイム: 1分32秒358) 決勝: 17位

ST1000クラス #45 埜口 遥希

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

予選: 5番手 (タイム: 1分29秒126) 決勝: 2位

J-GP3クラス #9 小合 真士 (SDG Motor Sports Jr. Team)

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 4番手 (タイム: 1分35秒692) 決勝: 11位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 予選: 10番手 (タイム: 1分46秒418) 決勝: 12位 (インタークラス: 9位)

MFJ CUP JP250 国際クラス #27 石井 千優 (SDG N-PLAN Racing)

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 3番手 (タイム: 1分43秒624) 決勝: 4位 (インタークラス: 3位)

- 1 Motegi
- 2 Suzuka
- 3 Autopolis
- 4 Sugo
- 5 Tsukuba
- ★ Suzuka 8H
- 6 Autopolis
- 7 Okayama
- 8 Suzuka



SDG スポット参戦の埜口遥希が2位入賞!



JSB1000 #5 Tepei Nagoe

シリーズ4戦が宮城県・スポーツランドSUGOで開催された。第2戦、第3戦と2&4レースが続きJSB1000クラスのみとなっていたため、他のクラスは、4月の開幕戦以来、2カ月振りのレースとなる。前戦より名越哲平がケガより復帰したこともあり、今回の第4戦でようやくフルメンバーがそろったことになった。さらに今シーズンは、アジアロードレース選手権(ARRC) ASB1000クラスにフル参戦している埜口遥希がSDG Motor Sports RT HARC-PRO. からST1000クラスにスポット参戦。これは、8月13日・14日に開催されるARRC第3戦を見据えた実戦テストを目的としているが、前週に行われたARRC第2戦マレーシア・レース2では見事に独走優勝を果たし、好調だけに今回のレースも大いに期待が集まっていた。



ST1000 #45 Haruki Noguchi

レースウィーク初日となった金曜日は、予報よりも悪天候となり朝から雨に見舞われる。土日はドライコンディションになる可能性が高かったため、それを見据えてウェットコンディションの中、確認作業を進めていく。JSB1000クラスの2本目には、雨は止み日差しも出ていたが路面は乾くまでには至らず中途半端な状況となっていた。そして最後の走行となったST1000クラスの2回目では、セッション開始直後に霧が出てしまい赤旗中断。そのまま中止となり、ST1000クラスは1本のみでの走行となっていた。



ST600 #33 Yuki Kunii

土曜日は、朝から快晴となりドライコンディションで公式予選が行われた。今回ST600クラスは、2レース制となっており、JSB1000クラス同様に、土曜日にレース1、日曜日にレース2が行われるスケジュール。予選は、土曜朝一番の走行となったのだが、國井勇輝、千田俊輝ともにマシンに問題を抱えてのタイムアタックになってしまいタイムが伸ばせず後方グリッドに沈んでしまう。復帰2戦目となる名越も初日が雨になったことでドライでのマシンセットを進めながらの予選となり、両レースとも10番手グリッド。

ST車両の榎戸が1列前に並ぶ予選結果となった。スポット参戦の埜口は、事前テストとのフィーリングの違いに苦しみながらも予選5番手につけ決勝での巻き返しを狙っていた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

JSB1000クラスは、レースで名越と榎戸がランデブーする場面も見られたが、復帰2戦目の名越は、まだまだ完調にはほど遠い状態だった。レース1ではマシントラブルが発生してしまいリタイア。レース2は、6位でチェッカーフラッグを受け調子を取り戻しつつあるので後半戦に期待。榎戸は、今回もスタートダッシュを決め、レース1、レース2共に7位でゴールし着実にポイントを重ねた。



ST600 #20 Toshiki Senda

2レース制で争われたST600クラスは、大荒れの展開となった。レース1は、國井、千田ともに転倒を喫してしまう。2人とも身体にダメージはなくマシンも軽傷だったため再スタートしチェッカーフラッグを受けた。レース2は、スタート直後にオイルを出してしまったマシンがあり、転倒が続出し赤旗中断。一時は、開催も危ぶまれたが12周で行われ、國井が11位、千田が17位でゴールしている。



ST1000 #45 Haruki Noguchi

ST1000クラスも2周目に入ったところでアクシデントが発生。JSB1000クラスレース2の後に2周減算の16周で行われることに変更された。最初のスタートでホールショットを奪っていた埜口だったが、2度目のスタートでも好ダッシュを見せ2番手で1コーナーに入ると4コーナーでトップに浮上する。レースをリードする埜口だったが、4周目に渡辺選手と國峰選手にかわされ3番手に下がるものの、しっかりトップグループにつける。8日目には國峰選手がトップに出るペースを上げていったため、これを逃すまいと、すぐに渡辺選手をかわし2番手に上がると、そのテールを追う。埜口は12周目にコースレコードを更新する1分28秒563をマークし、國峰選手に追いついていく。そして最終ラップに勝負を仕掛ける。馬の背コーナーのブレーキングでトップに立つが、SPインコーナーでクロスラインを取られてしまう。シケインでは、バックマーカーに引っかかり勝負できず、そのまま2位でゴール。悔しいレースとなったが、そのポテンシャルを大いにを見せてくれた。8月のARRC日本ラウンドも期待大だ。



J-GP3 #3 Ogo Shinji

J-GP3クラスの小合真士は、開幕戦に比べれば調子を上げてきており予選4番手につけていた。決勝は、3台による4位争いを繰り広げ6位でゴールしている。



JP250 #27 Chihiro Ishii

MFJ CUP JP250は赤間清が11位争いを繰り広げるが、勝負できずに12位でゴール。国際クラスでは9位となっている。開幕戦をケガで欠場していたSDG N-PLAN Racingの石井千優が今回から復帰。予選から安定した速さを見せ、2位争いを繰り広げ4位でチェッカー。国際クラス3位となり表彰台に上がっている。

■名越哲平コメント

「復帰2戦目ですが、やはり出遅れている部分があります。フィジカル面でも、まだ完調ではないので、後半戦は、しっかり走ることができるよう準備します。その前に鈴鹿8耐もあるので、いい走りができるようにチームと力を合わせて頑張ります」

■榎戸育寛コメント

「今回の第4戦SUGOでシーズン前半戦が終了しました。4戦8レースで様々な経験ができました。今シーズンは、ST車両をベースに戦っていますが、チームのおかげで着実に前進することができています。シーズン後半戦、3戦5レースも集中して臨みます」

■國井勇輝コメント

「レース1では転倒後に再スタート、レース2でようやく完走することができました。満足するには、ほど遠い結果でしたがウィーク通していいリズムを作ることができなかったことが敗因です。次戦まで、また時間が空きますが、初めて鈴鹿8耐に出場させていただけることになったので、いろいろ吸収して後半戦に生かせるようにしていきたいですね」

■千田俊輝コメント

「レース1は転倒後、再スタートで完走、レース2は、スタートもうまく決まり、序盤は、いい状態で走ることができていましたが、ズルズルとポジションを下げるレースになってしまいました。課題は、明らかなので、シーズン後半戦は、改善して結果を残せるように全力を尽くします」

■赤間清コメント

「今回も参戦にあたりご協力いただいた皆さんに感謝いたします。スタートはうまくいき7番手まで上がったのですが、ペースを維持できず追いつけるレースになってしまいました。セッティング的に、もっと攻めていく予定が、安定している方を選んでしまったので、次戦の筑波は攻めていきます！」

■埜口遥希コメント

「まずは、今回のSUGOラウンドに参戦させていただいたことをチームを始め関係者の皆さんに感謝いたします。初日が雨となってしまい、予選でのフィーリングが事前テストのときとフィーリングが変わってしまい苦しい走りになりましたが、決勝まで、いい方向にセットを変更することができました。さすがにペースが上がったので暴れる場面もありましたが…。勝てなかったことは悔しいですが、この経験をARRC日本ラウンドに生かしたいですね」